



学生防災リーダー指導によるジュニア防災リーダー育成のための防災キャンプの開催

全世代型防災教育の一環として 防災士養成への各種取り組みを実施

松山防災リーダー 育成センターの設立

愛媛大学は、2019年9月に松山防災リーダー育成センターを設置しました。本センターは、大規模自然災害に備えるために、小学生から高齢者に至る切れ目のない防災教育実施のためのシステム構築と防災教育プログラムの開発ならびに実践を通して、地域防災力の飛躍的な向上を図ることを目的としています。

具体的には、松山市と東京大学復興デザイン研究体ならびに愛媛大学防災情報研究センターと防災関連の市内の産官学民の組織が連携して、全世代型ならびに全組織対応の防災研修プログラムの作成と防災教育の実践に取り組んでいます。そして、50万都市である松山市の全市民を対象

として、地域防災教育や学校防災教育ならびに企業BCPの推進など、継続的、自律的、かつ効率的な防災教育モデルの構築を図っています。

全世代型防災リーダー育成プログラムの特色



ど登録しており、精力的な活動を展開しています。

市民向けならびに大学生向けの 防災士養成講座開講

50万人を対象に防災教育を行うためには、数多くの講義能力を持った指導者と様々な防災教育プログラムが必要となります。防災に関わる指導者の育成のために松山市ならびに愛媛大学では、日本防災士機構の防災士資格取得講座を活用しています。防災に関する知識を殆ど持ち合わせない市民でも、講座を受講し、認定試験をパスすれば、防災に関する最低限の知識と救命方法を身に付けることができます。松山市と愛媛大学では、この



学生防災リーダーに対する防災研修

制度を活用して、毎年600名の防災士を誕生させています。また愛媛大学では、防災士試験を受験できる環境防災学を開講しています。この科目は、1週間の集中講義で2単位を取得できます。開講時期は夏季休暇中であり、松山市内4大学の学生向けに開講しています。受講生は250名前後で、殆どどの学生が防災士資格認定試験を受けます。

防災士資格取得者の活動

防災士資格を取得した学生のうち、防災活動に関心ある大学生約100名が防災リーダークラブで活動しています。学生防災リーダーの活動は、地域や学校などでの防災活動支援、被災地支援、防災ボランティアガイドブックの作成、YouTubeを活用した災害記念碑紹介や防災クイズなどを通しての防災啓発に取り組んでいます。その活動回数は、年間に100回にもなります。

また松山市の防災士の数は、6000名を大きく超えて、全国の市町村単位では1位です。市内の自主防災組織数は753組織であり、各組織の防災士を中



学生防災リーダーが講師として小学校で防災授業

心に年に4,000回もの防災活動を行っています。このように松山市の防災活動は極めて活発で、防災まちづくり大賞など数多くの表彰を受けています。

地域の避難誘導は 防災士が率先して

しかし、防災士の数が市町村単位で日本一であり、非常に活発な防災活動が行われていても、避難指示発令時の避難行動となるとまだまだです。2020年7月の深夜、梅雨前線による集中豪雨により松山市が土砂災害に対する避難指示を発令しまし

た。その時の避難行動について松山市内の防災士の幹部を中心にアンケート調査を行いました。その結果、300人から回答を得た中で避難した方は、僅か10人でした。防災士ですら避難した人は僅かに3%です。危険が差し迫っている中、行政がいくら避難指示を出しても、それに従う人は本当に少数です。土砂災害であれ、洪水災害であれ、津波災害であれ、命を守るための最大の方策は、事前避難です。しかし、分かっている人も人は実践できません。せめて防災士資格を取得された方には、避難行動を取って欲しいものです。

マイ・タイムライン作成を通じた 逃げ遅れゼロプロジェクト

そこで、2021年10月から全市民を対象に、「マイ・タイムラインを活用した松山逃げ遅れゼロプロジェクト」を開始しています。松山市内全公民館でのマイ・タイムライン作成講座、松山市内全中学校の1年生を対象にしたマイ・タイムライン作成講義、それと松山市内全福祉施設におけるマイ・タイムライン作成実践を3本の柱として取り組んでいます。

この取り組みでは、多くの方にマイ・タイムラインの作成を通して、避難指示が発令された時に持つべき意識という意識を持つてもらったためのきっかけ作りです。一生を通して何十回も避難行動をとるような事態に遭遇することはありません。高々、数回から十数回程度でしょうか。それで命が守られます。避難指示が出れば、必ず避難するぞという決断を促すための講座です。それと共に講師を務める自主防災組織の防災士や教員防災士の意識の変化を促すことです。講師が率先避難の意識を持たないと、受講生に響くはずがありません。それで、このプロジェクトの実施を通して、1000名もの防災士や教員を指導者として育成し、率先避難の当事者としての意識変革を図ることです。

松山市は、防災士養成の取り組みに力を注いでいます。防災士の数は、全国の市町村で堂々の1位です。しかし、数だけではどうしようもありません。避難指示に従わない防災士がいくらいても仕方ありません。予想される大規模自然災害発生時に役立つように、次の段階に向けて各種の取り組みをしているところです。

